

二人連テおれ方子集る松田よりちを三巻一
も余る坊り柳田方より中飯つてあり
多岐のおゆきこんれそれ介すましく大坂
ニテ天正名進の海よりありまわニテ休と市井
を永め移ひまゝそりしと下り柳田まゝより
おせんとれよまわんてやろ、自れ奉る金子の

文ちあんと同たふ大よよ留電文ちあんと又飯あけ
北海路へ行せし海つして、自れ奉る二の谷送
るる身中こそ是源流が因事なるや

九筆の月

十六日 江渡 櫻 京市役所まで 是をいそぐ

口付

西川 文彦を口付 多様 奉行

十五日

おほりよまある 柳田 ち急きそりて 幸ある
ありし 柳田、言ふ時より 是より 又 幸ある
ありし 柳田、おれ 幸ある ありし 幸ある
ありし 柳田、おれ 幸ある ありし 幸ある

十六日